

＜北國銀行 単体レバレッジ比率の構成に関する事項＞

【2022年3月末】

(単位：百万円、%)

国際様式 (表2)の該 当番号	国際様式 (表1)の 該当番号	項目	当四半期 期末 2022年3月	前四半期 期末 2021年12月
オン・バランス資産の額 (1)				
1		調整項目控除前のオン・バランス資産の額	4,105,704	4,254,400
	1a	1 貸借対照表における総資産の額	4,128,279	4,274,023
	1d	3 貸借対照表における総資産の額から控除される調整項目以外の資産の額 (△)	22,574	19,623
2	7	Tier1 資本に係る調整項目の額 (△)	10,315	12,501
3		オン・バランス資産の額 (イ)	4,095,388	4,241,898
デリバティブ取引等に関する額 (2)				
4		デリバティブ取引等に関するRCの額に1.4を乗じた額	-	-
		デリバティブ取引等に関する再構築コストの額	212	-
5		デリバティブ取引等に関するPFEの額に1.4を乗じた額	-	-
		デリバティブ取引等に関するアドオンの額	1,114	513
		デリバティブ取引等に関連して現金で差し入れた証拠金の対価の額	3,387	696
6		貸借対照表から控除されているデリバティブ取引等に関連して差し入れた担保の対価の額	-	-
		貸借対照表から控除されているデリバティブ取引等に関連して現金で差し入れた証拠金の対価の額	-	-
7		デリバティブ取引等に関連して現金で差し入れた変動証拠金の対価の額のうち控除する額 (△)	-	-
8		清算会員である銀行又は銀行持株会社が補償を義務付けられていない顧客とのトレード・エクスポージャーの額 (△)	-	-
9		クレジット・デリバティブのプロテクションを提供した場合における調整後想定元本の額	-	-
10		クレジット・デリバティブのプロテクションを提供した場合における調整後想定元本の額から控除した額 (△)	-	-
11	4	デリバティブ取引等に関する額 (ロ)	4,713	1,209
レポ取引等に関する額 (3)				
12		レポ取引等に関する資産の額	-	-
13		レポ取引等に関する資産の額から控除した額 (△)	-	-
14		レポ取引等に関するカウンターパーティ・リスクのエクスポージャーの額	42,312	76,500
15		代理取引のエクスポージャーの額	-	-
16	5	レポ取引等に関する額 (ハ)	42,312	76,500
オフ・バランス取引に関する額 (4)				
17		オフ・バランス取引の想定元本の額	409,548	413,678
18		オフ・バランス取引に係るエクスポージャーの額への変換調整の額 (△)	345,956	349,794
19	6	オフ・バランス取引に関する額 (ニ)	63,591	63,884
単体レバレッジ比率 (5)				
20		資本の額 (ホ)	221,678	254,303
21	8	総エクスポージャーの額 ((イ) + (ロ) + (ハ) + (ニ)) (ヘ)	4,206,006	4,383,492
22		単体レバレッジ比率 ((ホ) / (ヘ))	5.27%	5.80%
日本銀行に対する預け金を算入する場合の単体レバレッジ比率 (6)				
		総エクスポージャーの額 (ヘ)	4,206,006	4,383,492
		日本銀行に対する預け金の額	1,565,662	1,275,192
		日本銀行に対する預け金を算入する場合の総エクスポージャーの額 (ヘ')	5,771,668	5,658,685
		日本銀行に対する預け金を算入する場合の単体レバレッジ比率 ((ホ) / (ヘ'))	3.84%	4.49%

- ・上記は、平成26年金融庁告示第7号の別紙様式第3号に基づく開示事項です。
- ・旧計算告示第15条の規定によってデリバティブ取引に関する額を算出しております。
- ・「国際様式の該当番号」とは、バーゼル銀行監督委員会より2014年1月に公表された「レバレッジ比率の枠組みと開示要件を定める国際合意文書」における開示様式に記載された項目番号です。

前四半期の単体レバレッジ比率との間に著しい差異を生じた原因（該当差異がある場合に限る。）

単体レバレッジ比率は、前四半期末比0.53%減少しました。

「その他有価証券評価差額金」の減少等により、資本の額が326億円減少したことが要因です。